イラク小児がん、白血病支援　17 年度報告

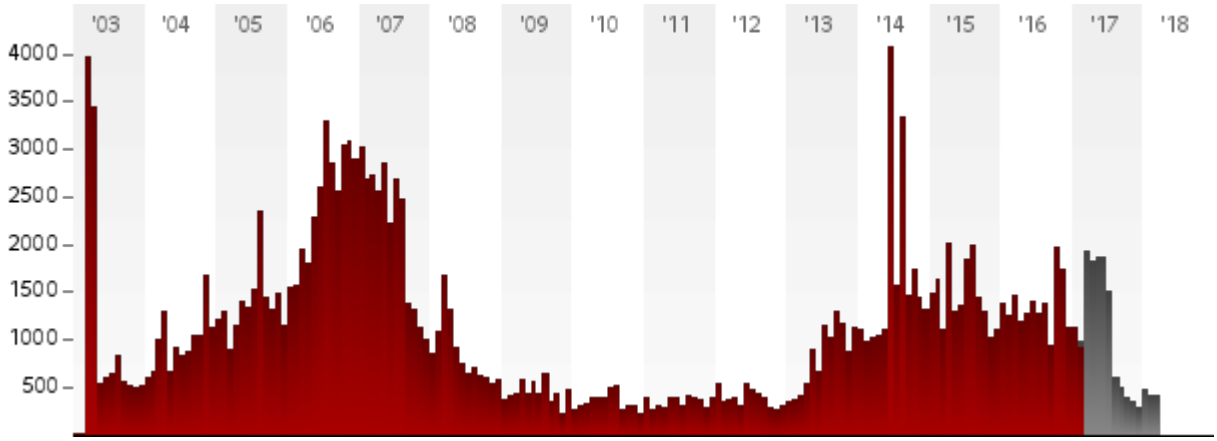
■ 実施地域:イラク共和国、バスラ州

■支援対象者:イラク共和国、通院のための交通費などを必要とする貧困家庭の小児がんの子ども

【背景】

2003 年のイラク戦争から15 年が経ちました。NGOイラクボディカウントが毎月民間人の死者数（テロや戦闘に巻き込まれた人々）を公開しています。このグラフを見れば、いかに、一度始めてしまった戦争が、その地域の人たちを苦しめるかがよくわかります。JIMーNETは、このような状況で小児がんの子ども達の支援を行っています。がんで死んだ子ども達はこのグラフの中には含まれませんが、戦火を逃げ惑う患者の治療が如何に大変かは想像できるでしょう。

2014 年 1 月に、「イスラム国」がファルージャを制圧、イラク政府軍との激しい内戦状態が続き、6 月には、モスルが陥落しました。アメリカを主体とした連合軍が再びイラクを空爆。昨年 2017 年 7 月には、イラク軍がモスルを奪還し、「イスラム国」はほぼ壊滅状態になりました。300 万人を超えてた避難民も戻りつつあります。



イラクによる民間人の死亡者数（Iraq Body count　より）

モスルの旧市街　ISから解放されたもの激しく破壊され戻れない人も多い。

クルドの独立をめぐる国民投票が 9 月 25 日に実施されました。これに対して、イラク中央政府は怒りをあらわにし、クルドの自治権をはく奪。国際線の出入りを禁止しました。JIMーNETの事務所もクルド自治政区にあり、VISAは、自治政府が発行していましたが、中央政府の管轄となり、新たなNGO登録、ビザの発給を在日イラク大使館を通して行うことになり、日本人が現地に滞在できなくなりました。一時期は、クルドとイラク中央政府との間での武力衝突も発生しましたが、現在は落ち着いており、国際線も再開し駐在員を再赴任できました。しかし、2018 年 5 月 12 日に国政選挙が行われるために予断を許せません。

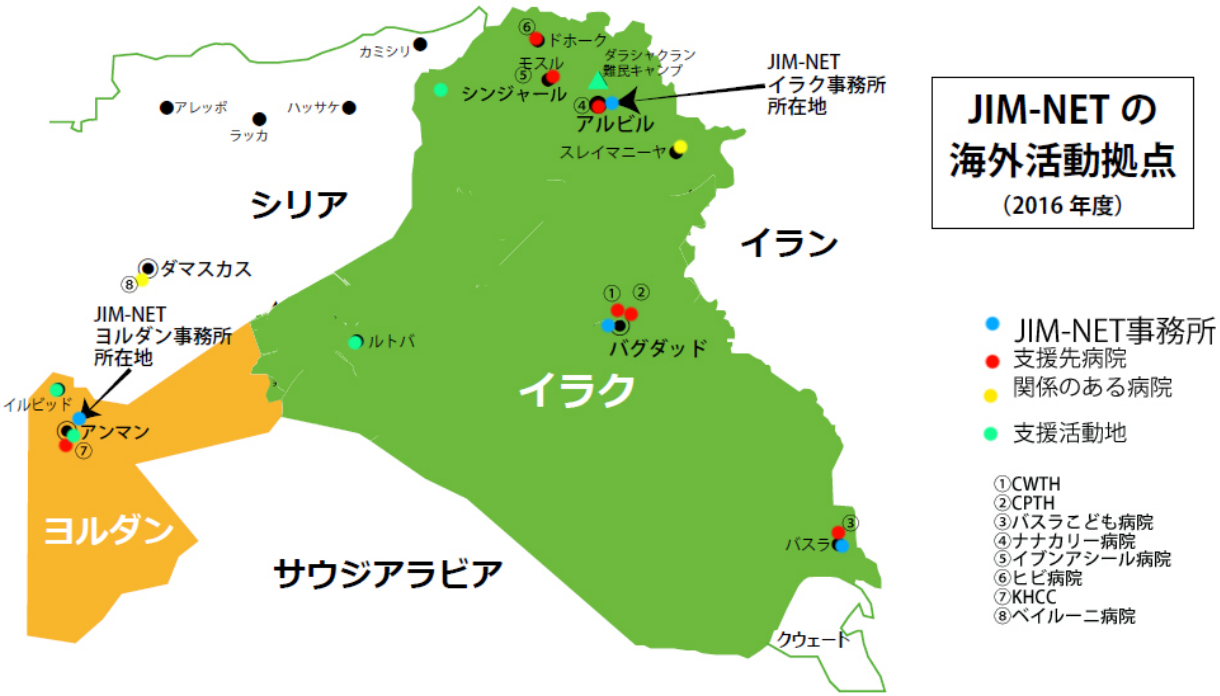
【小児がんの支援状況】

JIM-NET は一貫して、小児がんの子ども達の支援を行ってきました。イラク戦争直後はヨルダンのアンマンに事務所を置き遠隔操作で、首都のバグダッドの 2 病院をはじめ、バスラ、モスルの病院を支援。そして 2009 年からは、拠点をアルビルに移し、日本人を常駐させて、アルビルの病院を支援先に加えました。2014 年にはISがモスルを陥落させたためにモスルの病院支援はとまっていましたが、モスルからの避難してくるがんの子ども達を各病院で支援しました。昨年からは、定期的に医薬品をモスルへ届けるようになりました。

さて、南端のバスラですが、湾岸戦争、イラク戦争で最も多くの劣化ウラン弾が使用されたとされています。イブンガスワン母子病院の一角で小児がんの治療が行われていましたが、2010 年に米国の支援でバスラこども病院が新しく建てられました。白血病やリンパ腫など血液腫瘍が子ども達には多くみられ、2004 年から 2018 年まで 2180 人が罹患しており、内訳は白血病が 944 名、リンパ腫 368 人　固形がん 868 名。また、一か月単位で外来患者は毎月 450 名です。

JIMーNETでは、小児がんの死因として、初期の集中治療時の出血、感染症による死を低減するために、輸血システムの充実化や感染症対策などを支援してきました。白血病の中でも一般的なALL（急性リンパ性白血病）に注目しデータ一解析を行っています。2017 年は、70 名の新患がおり、そのうち生存が確認されているのは 54 名です。単純に計算すれば 77%の生存率ということになります。貧しい家庭の子ども達は、中々病院に行くことができず、手遅れになってしまうケースもあります。

JIMーNETでは、貧困患者が病院に行けるように毎月経済的な支援を行っています。



バスラこども病院の外観

病院には治療を無事に終えた子ども達の写真が飾られている

【目的と成果】

バスラ小児がん患者の貧困患者

バスラでは、「イスラム国」との直接の戦闘による影響はほとんどないが、もともと貧困レベルは劣悪なために、貧困家庭の患者がきちんと治療を続けるようにサポートすることが重要である。

1. バスラこども病院に通う患者のうち、貧困家庭を選び交通費を補助。
   毎月50＄ないし100＄を15－20人ほどの子どもたちに支援する。
2. 期待される効果
   子どもたちが、病院に行き、決められたプロトコールを受けられることで
   子ども達の命が救われること

【実績】

毎月予算1000ドルとし、一人あたり50ドル—150ドルで主に、病院に来るための交通費として支援した。しかしながら、モスルからの避難民を毎月支援したために、年間の支援実績としては、合計人数でのべ 153 人、総額 15350ドルの支援となった。支援回数は一人につき 1 回—8 回になり、対象患者は、78 名。父親の職業別で見れば無職、日雇いが大半をしめた。

職業	人数		支援金額＄
無職	31	40%	4150
日雇い	22	28%	2700
死亡	11	14%	3100
障害者	6	8%	1350
IDP	6	8%	3600
兵士	1	1%	350
先生	1	1%	100
合計	78	100%	15350

また、15 歳以上の患者および、生存者も 13 名リストに含まれており、JIM－NETの 15 年間の活動で、がん治療に成功した青少年を今後どう社会に参加されるかも重要なテーマである。

*IDP＝国内避難民の意味でモスルから避難している

【IDP患者の例】

1） アリ・ムハンマッド・ジャーシム　13 歳　脳腫瘍　モスルに住んでいたが避難する途中でおじいさんがISに殺された
2） アブドル・サッタール　2 歳　リンパ腫　シャルカット市からISに追い出された。
3） バラ・アドナン　10 歳　東モスルから逃げてきた　白血病
4） ルールハリッド7歳　モスルから避難
5） テイシール・アッラ　2 歳　大腸がんでラマディより避難
6） アッバース・ハディール　9 歳タルアファルより避難

【青少年に向けた取り組み】

アブドルザハラさんは、10 歳のときに卵巣がんにかかりました。卵巣を取り除く手術をし、その後は、化学療法を受けていました。治療中は、髪の毛が抜けたり、顔が腫れたりして、世間の目が気になり引きこもりになりました。無事に治療が終わっても家のなかに引きこもっていました。20 歳になった彼女は、チョコ募金用の缶のデザインを頼まれたことをきっかけに、がんの子どもたちを助ける仕事につきたいとJIM－NETで働くようになりました。

がんの子どもたちに絵を教えるアブドルザハラさん

アブドルザハラさんのイラストを用いて完成した「がん経験者が言いたい 10 のこと」

【まとめ】

PAL システムから頂いたご支援のおかげで、バスラこども病院に通う小児がん患者のうちでも特に貧困家庭を支援することができました。また、いままで支援してきたアブドルザハラさんがJIM－NETで働き、イブラヒムと一緒にバスラからアルビルに 3 回ぐらい通って、活動を広げてくれています。15 歳—20 歳は、病院では成人の癌として扱われるために私たちはかかわってきませんでした。しかし、折角がんが治っても学校に行っていない、体力に自信がないなど、様々な悩みを抱え社会参加が難しくなっています。JIM－NETでは、今まで通り、小児がんの医療支援を実施しながら、この世代の若者たちとも一緒になって、活動を展開していきます。

今後ともご支援よろしくお願いします。